



「協働で取り組むプロジェクト」は、将来の望ましい環境像の実現に向けて、市民、事業者、民間団体及び市の各主体が協働して取り組むべき行動について10項目にまとめたものです。これらの項目を具体的に実現させていくためには、市民、事業者、民間団体及び行政が知恵を出し合って実行計画を立て、多くの人の協力を得ることが重要です。

1 省エネルギーとエネルギー転換によるストップ地球温暖化

地球温暖化は、二酸化炭素をはじめとする**温室効果ガス***の濃度が高くなることで、地球の表面付近の温度が上昇することです。その影響は、気候変動による気温の上昇や大雨の頻度の増加等がもたらす災害の原因ともいわれています。

温室効果ガスの排出を最小限に抑え、地球温暖化を防止するためには、消費するエネルギーをいかに少なくするか、また、エネルギーを有効に利用するかが大切です。もう一つ大切なのは、石油などの化石燃料をできるだけ使わないようにして、太陽光などの再生可能エネルギーを活用することです。これらの知恵と取組を共有して、市民全体で地球温暖化対策を推進しましょう。

2 ごみ減量と資源化でものを無駄にしない社会に

ごみを減らすことは、ごみを燃やすことによって発生する二酸化炭素の削減につながり、これも地球温暖化防止のために重要です。たとえば、生ごみやせん定した枝、草を堆肥として活用できれば燃やす必要はなくなります。そのためには、ごみを出す人、回収する人、堆肥を使う人、そして、そこでできた作物を消費する人がネットワークを組んでいく必要があります。その他の物も、ごみとして捨てず、次に使う人がいれば資源になります。ごみを燃やさずに資源にする取組を、みんなで考えていきましょう。

3 緑の保全と緑化によって人と生き物が暮らしやすいまちに

1950年代までの川越では、人口の半分以上の人は農業を営み、それにより地域の緑が守られてきました。その後、人口が増え、工業、商業が充実し、農家人口は減少しています。農地や**樹林地***は減少を続け、身近に自然を感じる場所がどんどん失われてきています。これによって、野生の生き物が暮らす場所も奪われ、きれいでさわやかな空気という、私たちが暮らすために欠かせない環境も奪われてしまいました。失われた自然を取り戻すことは困難ですが、市街地における緑を増やすため、家庭や身近な生活空間における緑化も行われています。農地や樹林地の緑を守り、身近な生活空間の緑を増やすことは、今後の川越にますます重要なこととなります。かけがえのない緑を守り、増やすために、みんなでどのようなことができるのかを考え、実行していきましょう。

4 水循環の回復と河川や池沼の水辺環境を守って川越らしさを回復しよう

川越はその名のとおり川で囲まれたまちですが、気候の変化や都市化によって、かつてない豪雨や洪水に見舞われる可能性があります。川や水路はコンクリートで固められ、人と川との距離は遠ざかってしまいました。また、川越の各地にあった湧水は少なくなっていました。川の水質は、汚れていた1980年代と比べ改善が進みきれいになりましたが、一部の地点で課題が残されています。雨を大地にしみ込ませ、自然の水循環を回復させることは、水辺の環境を回復させるだけでなく、人や野生の生き物の暮らす環境や景観をより良くすることにもつながります。水循環と水辺環境を守る取組によって水のまち川越を復活させましょう。

5 ポイ捨てごみと不法投棄の根絶できれいなまちに

まちのポイ捨てごみと郊外の不法投棄ごみは、どうしてそんなことをするのかと多くの市民が思いながら、いつまでも解決しない大きな問題です。一方で、ごみを拾う運動も懸命に行われています。捨てる人が減り、拾う人が増えれば、ポイ捨てごみと不法投棄ごみはなくなっていくでしょう。年に2回行われているクリーン川越市民運動（ごみゼロ運動）は、自治会を中心とした各種団体、企業、そして市が連携して実施するグラウンドワーク*活動として大きな成果をあげています。今後は、よりきれいなまちを実現するために、各地域の実情を勘案し、どのような取組が必要か地域ごとに考え実践していきましょう。

6 安全で安心して移動できるまちに

多くの自動車は燃料を燃やして動き、それにより発生する熱と排出ガスは、まちの環境や地球全体の環境に大きな影響を与えています。市民が誇れる魅力的な観光都市を目指す本市にとって、自動車の利用による環境への負荷を減らすことは、最も大きな問題です。一方で、まちは拡大し、自動車がなければ買い物へ行くにも不自由することもあります。自動車から公共交通機関の利用への転換を進めるためには、電車やバスなどの公共交通機関の充実が必要ですが、そのためには多くの人々が公共交通機関を利用する必要があります。また、川越の地形は高低差が少ないので、徒歩や自転車でも快適に移動できる環境が整備されれば、自動車の利用を減らすことができます。安全で安心して移動できるまちにするために、みんなが集い、知恵を出し合って実践に結びつけていきましょう。

7 環境を学習する機会を作って多くの人の環境に対する関心を高めよう

環境問題は多くの人々が関心を持っていることですが、いったい何をすればよいのか分からない、また、自分は環境とは関係ないと思っている人も多いのではないのでしょうか。環境学習の機会を確保したり、人材を育成したりすることは、環境への関心をさらに高め、行動に移す人を増やすために欠かせません。さまざまな人が環境について学習することができるように、どのような機会を作ればよいか考えていきましょう。

8 環境調査を実施して記録を残して将来に生かそう

今の環境がどのような状態になっているか記録し、残しておくことは、将来の環境を考えるため、また、過去の環境を振り返るために欠かせないことです。市内の環境に関する基礎データを収集することで、地域環境の現状を把握し、環境施策に生かすとともに、環境問題を市民とともに考える環境学習の場とするため、市は、平成8年度から、「市民環境調査」を実施しています。このような取組は継続して行っていく必要があります。多くの方が環境調査に参加して記録に残し、将来の世代に伝えていきましょう。

9 情報共有のしくみを作って助け合いながら環境を良くしよう

環境活動の成果をみんなに伝えたり、環境活動への参加を呼びかけたりすることは、協働するために最も必要なことです。互いに協力しながら環境を良くする活動を盛り上げていくために、どのような情報をどのように共有すべきか、知恵を出し合って一つずつ実践していきましょう。

10 1%環境ボランティア運動で環境を良くする活動の輪を広げよう

災害時のボランティアは日本の社会に定着してきましたが、環境を守るためにもボランティアの役割はとても重要です。環境ボランティアには息の長い活動が求められます。さまざまな環境活動を推進するため、市民の1%である約3,500人が、さまざまな環境ボランティア運動の核となり、環境を良くする活動の輪を広げていきましょう。